

## 平成25年度事業計画（案）

### 1 和装財団の運営

和装財団は、基本財産・和装文化振興基金約12億円及び賃貸用不動産等を運営資産として保有しています。

これらの資産は、資産管理運用規程に基づいて適切な運用に努めておりますが、特に和装文化振興基金については、現在の低金利環境の中でより多くから情報を求め、安全かつ出来る限り有利な運用に努めます。

運営管理費については、一層の削減に努めるとともに、継続事業についても見直しや経費の合理的な縮減を図りながら、業界が抱える課題の解決に向けて和装関連団体としっかりと連携しながら事業推進に取り組みます。

また、平成25年11月を申請期限とする、新たな公益法人制度への移行については、昨年12月の臨時理事会・評議員会の決議に基づき、12月27日に京都府知事宛て認可申請をしました。25年度中の円滑な認可に向けて、「京都府公益認定等審議会」等からの求めによる追加資料作成や説明等の対応、認可後の理事会・評議員会開催や移行諸手続き等必要な取組を着実に進めます。

### 2 和装業界人のモラル向上

大変厳しい経営環境が長期に渡り続く今日、モラルを逸脱した取引に関与することが憂慮される状況にあります。商道德を含め倫理を確立し消費者の信頼回復を図ることを目的に、平成18年に財団をはじめ関係和装団体で制定された「きもの文化宣言」の意義を全ての業界人が再認識し、日々襟を正した商いが行われることを願うものです。

<宣言文> 「きもの文化を未来に輝くものとするために」(抜粋)

○私達は、消費者第一の商習慣の徹底を図り、消費者の信頼を損ないかねないきもの押し付け販売、支払能力を顧みないローン販売等の一掃を目指します。

○私達は、消費者への適切な情報提供を図るため、帯やきものについて原

産国表示や製造加工方式などについての情報開示やトレーサビリティ制度の確立を内容とする、公正競争規約の制定に努めます。

### 3 企画広報事業

マスメディア等を通じて一般消費者に広く和装に関する情報を発信するとともに、インターネットの更なる活用方法の検討を進め、ホームページの機能や内容の充実等に努めます。

また、きものよろず相談窓口を開設することにより消費者の生の声を聞いて困りごとの解決をサポートするとともに、きものへの親しみと関心を高めていただく機会とします。

さらに業界団体、各青年会など様々な主体が実施する事業とも連携をはかり、広報の相乗効果が上るよう努めます。

- 情報発信事業の取り組み — マスメディア等への情報提供やホームページによる広報、インターネット活用等
- きものよろず相談窓口の定期開催
- ホームページ等を活用した関連団体との広報連携の強化

### 4 和装普及啓発事業

修学旅行で京都を訪れる中高生を対象に、きものを初めて体験して、その魅力と楽しさを知ってもらう貴重な機会と観光面からも評価を得ているきもの修学旅行及び平成 21 年度から和装学院振興協議会のご協力により実施している初心者着つけ教室の開催など、きものユーザーの掘り起こしと育成に取り組めます。

また、行政機関や公益的機関等が行うきもの振興に繋がる各種催事等の参加者へのきもの貸し出し等を実施するなど、様々な連携した取り組みにより、和装普及に効果と広がりのある事業の充実に努めます。

なお、各事業については、常に費用対効果を意識し、内容や経費面での必要な見直しに取り組んでいくこととします。

また、京都きものパスポートの発行等を行う「きもの似合うまち・京

都」推進事業や、「伝統産業の日」関連事業、「きものステーション・京都」、各青年会事業等と積極的に連携して、きもの姿で京都の街を楽しむ人々の増加と和装の啓発に努めます。

さらに、平成 18 年度に購入した町家については、地域のまちづくりや企業、観光と連携し和装振興を図っていきます。

- 和装文化の継承に繋がる将来のきものファンづくりをめざす修学旅行生等きもの着つけ・貸し出し事業の実施
- 初心者向け着つけ教室の開催
- 「きもの似合うまち・京都」推進事業の取り組み
- 「伝統産業の日」関連事業への支援
- 和装業界等が取り組む各種事業との連携強化

## 5 和装教育支援事業

学校教育における伝統文化学習機会充実の動きなども注視しながら、高等学校等が行う着つけ授業のきもの貸し出しや講師派遣等の支援、京都府が実施している「高校生伝統文化事業」との連携などにより、教育の場における着つけや和装に関する知識の習得支援に努めます。

また、きものに関心を持ち、きもの振興に繋がる活動に自主的に取り組んでいる学生サークル等への協力・支援を積極的に行っていきます。

- 学校教育における着つけ実習への支援
- 大学生着付け塾の開催
- きもの着つけ DVD の普及
- 大学生が行う和装関連取組との連携強化